

姫路城 冬の特別公開



おれまわりやぐら

折廻り櫓 内部公開

姫路城の大天守のふもと、備前丸は、かつて姫路城を築城した池田輝政の御殿があったところです。
その備前丸の東北に、大天守の石垣にそっと寄り添い備前門と一体となった櫓が、折廻り櫓（おれまわりやぐら）。
今回は、普段は公開していない折廻り櫓と備前門の内部をご覧ください。

平成30年(2018年)2月1日(木)～28日(水)

時間／9:00～16:00 ※閉門は17時

公開場所／世界遺産 姫路城大天守南東 折廻り櫓（おれまわりやぐら）

見学無料 ※但し、姫路城の入城料は必要です



折

廻り櫓は、2層2階で、1階は東室、西室の2部屋からなり、2階は、東室、中室、西室の3室からなっています。2階は、柱材にすべて檜が使われていました。御殿建築などで多用される樹種です。西室の中央には炉が切られ、住宅風の意匠が施されています。備前丸にあった御殿の一角を構成していたとみられます。

折廻り櫓の名前は、当初、この櫓が、西側の大天守に接する場所に南に折れ曲がって櫓が続いていたことに由来していますが、この部分は、明治43年(1910年)の修理の時に取り除かれました。

